OKBふれあい会館
サラマンカホール
ふれあいだより 特別号

ESSAY エッセイ

クラシックは面白い ――その 11

ピアノのお話 Ⅳ

ピアノという楽器には鍵(けん)が普通 88 箇並んでいます。その一つ一つの鍵(けん)の先には見えないのですがハンマー（槌(つち)）の頭(ヘッド)のようなものがついています。ピアノはこのハンマー・ヘッドで弦を叩く楽器なのですが、あらゆる打楽器は叩いた瞬間に叩いたものと叩かれたものが離れないといい音がしません。ではどうやって、ピアノの鍵(けん)についているハンマーヘッドは弦を叩いたあと、弦から離れるのでしょうか。

それは天才の着想でした。

でもコロンブスの卵ではないが、天才の着想というものは、答を聞くと「ナーンダ。ソンナコトカ」と思うのです。

クリストフォーリの考えついたことは、ハンマーヘッドを鍵(けん)の先に固定せずに、ただ乗せておくということでした。そうしておいて鍵(けん)を指で押さえると鍵(けん)の先は持ち上がり、はずみで、そこに乗っていたハンマーヘッドは上に放り出されます。上には弦が張ってあるので、それにぶつかって音が出ます（鳴ります）。弦にぶつかったあとハンマーヘッドは、跳ね返って落ちてきます（いつまでも弦にくっついていません）。

ナーンダ。ソウイウコトカ。そうなんです。ハンマーヘッドは固定されていないので、弦を押した勢いで持ち上げられ、空中に放り出され、上に張ってある弦にぶつかります。ぶつかるとすぐに跳ね返って落下するので、うまく音が出るというわけです。

「でも、その飛び上がったハンマーヘッドが元のところに戻らないと、次にもう一回鳴らすわけにはいかないね。」

「そうなんです。どうしましょう。飛び上がったハンマーヘッドがきちんと元の場所に戻らないといけませんが」

「ハンマーヘッドにヒモをつけて置けば」

「ヒモくらいじゃダメでしょうネ。あちこち変な所に戻ってしまいませんか」

そこが発明者クリストフォーリの最も苦心したところでしょうね。飛び上がったハンマーヘッドが素早く元の位置に戻る（戻らないと二度と音が出ない）ようにするにはどうすれば良いのか。そっと叩けばハンマーヘッドがそっと飛び上がり、強く叩けば強く飛び上がる。この二つの原則を満たさないとピアノのメカニズムとしては落第となります。

クリストフォーリの発明が初めて新聞記事になったのが 1711 年で、ピアノのこのメカニズムは、その後、代々の名人技術者たちの手を経て完成の域に達していきます。（つづく）

執筆／石井宏（音楽評論家）

1930 年、東京生まれ。音楽評論家・作家・翻訳家。モーツァルト評論の第一人者と目され、評論活動のほか、ラジオやテレビの番組でも評判となる。2004 年、『反音楽史　さらば、ベートーヴェン』（新潮社）で山本七平賞を受賞。

ぎふ秋の音楽祭 2017 “鍵盤の日”

LIFE ～人生に似たピアノ

横山幸雄 10 時間ショパン連続演奏

2017. **11/18**(土)

11:00 開演 (10:30 開場) 20:45 終演

チケット料金
全席指定
S席 5,000円
A席 4,000円
学生半額（30歳まで）
※サラマンカメイトは一割引
※未就学児の入場はご遠慮ください。

チケット発売中

©アールアンフィニ

《Program》
ショパン：英雄ポロネーズ　ほか
全 84 曲 (6 部構成)

Piano Party
ピアノパーティー
圧巻、ピアノ4台　絶妙、ピアニスト4人

2017. **11/19**(日)
16:00 開演 (15:30 開場)

チケット料金
全席指定 S席 4,000円
A席 2,000円
学生半額（30歳まで）　※サラマンカメイトは一割引
※未就学児の入場はご遠慮ください。

チケット発売中

近藤嘉宏

宮谷理香 ©Akira Muto

菊地裕介

松本和将

《Program》ベートーヴェン / キルヒナー：交響曲第 5 番「運命」(4 台 8 手) ほか

サラマンカホール チケットセンター ✆058-277-1110 ほか プレイガイドにて　主催：サラマンカホール　助成／(一財)地域創造　サラマンカホール 検索